

## 自動車関連技術小特集の発行に当たって

自動車関連事業室長

中山 明彦  
Akihiko Nakayama

当社は、三菱自動車工業(株)[以下三菱自動車]との新たな関係に入ったことを契機に、自動車マーケットへの取組みを一段と強化すべく、昨年4月、本社に自動車関連事業室を設置し、社内の関連製品・技術に横串を刺す形で戦略の策定を行ない、先般当社の自動車関連事業としての中期事業計画の取り纏めを行なったところでもあります。

当社は、三菱自動車をはじめ各自動車メーカーに対して汎用機・特車事業本部のターボチャージャ、冷熱事業本部のカーエアコン、工作機械事業部の各種工作機械やエンジンバルブ・ミッション製品、及び現在は三菱重工プラスチックテクノロジー(株)が取り扱っている射出成形機などを代表的な製品として事業を展開して参りました。

一方で自動車産業を取り巻く情勢は、社会的には環境問題への技術的対応、ユーザにおいては運転時の安全性・安心感・快適性の確保が強く求められるとともに、構造的には電装化・軽量化の進展でテレマティクス(車載用情報・通信)関連技術や新素材の利用も進み、自動車そのものの開発・生産にもより一層の効率化が必要となるなど、あらゆる面で日々刻々と変化が続いており、これらすべてに対応していくには、常に大局的な視点からあらゆる技術の開発と応用を戦略的に進めていくことが何より重要であります。

こうした観点から、当社は自動車関連事業の拡大・強化策として、これまで手がけてきた製品群に加え、自動車開発に不可欠な各種の試験装置や、低騒音・環境風洞、さらには交通インフラとしてのITS・ETC関連システム、自動車のハイブリッド化・電動化に伴うサーボモータ・インバータなどの先進製品もラインアップし、当社の総合力を余すところなく自動車という分野に振り向けるよう、製品・技術の棚卸を行ない、

新製品開発の企画・促進も含めた取組みを展開しております。

また、三菱自動車との間では、これらの各製品を網羅して共同開発を促進する一元的な組織を設置して取組みを進めており、こうした中から具体的なプロジェクトとして、新型クリーンディーゼルエンジンの共同開発を進めることとし、先般対外発表を行なったところです。

今回の技報では小特集として、新型ターボチャージャを2種、カーエアコンの新技術を2種、加工設備としての工作機械を2種のほか、新型超大型電動射出成形機、そしてITS関連技術、油圧利用の試験装置、風洞など合わせて11編の代表的な製品・技術に関する論文を掲載しています。

これらは当社の自動車マーケットへの取組みのごく一部に過ぎないものではありませんが、今後とも技術本部・各関連事業(本)部・事業所との連携を深め、自動車関連事業を当社の新たな柱として育成するよう努めて参りますので、皆様のより一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、自動車マーケットに対し、当社が自動車関連製品を数多く手がけていることを知っていただくため、クルマの中心に当社製品が存在していることをイメージ化する“Mitsubishi at the core”を統一ステートメントとして広告宣伝活動も行なっており、自動車関連製品の統合カタログなどでもご案内しておりますので、この場をお借りしてお知らせ申し上げます。

Mitsubishi *at* the core.